まえがき

第Ⅰ章　蠟山政道の生涯

Ⅰ－1　戦前の蠟山政道　1

（一）閉塞状況のなかで／（二）東京生活のはじまり／（三）研究者の道にすすむ／（四）結婚と処女作の刊行／（五）英国・欧州への留学（一）／（六）英国・欧州への留学（二）／（七）行政学講座の担当／（八）研究所の設立と満州問題／（九）「左傾・右傾思想」に挟まれて／（一〇）昭和研究会への参画／（一一）『行政学原論』の刊行／（一二）河合事件で東大教授を辞任／（一三）「翼賛議会」参画の選択／（一四）比島調査委員会と議会での活動

Ⅰ－2　戦後の蠟山政道　54

（一）「書斎の生活」に戻って／（二）学界への復帰／（三）日本行政学会の初代理事長に／（四）先送りされた「行政学体系」／（五）米国行政教育の視察／（六）お茶の水女子大学学長に就任／（七）憲法調査会への取り組み／（八）民主社会主義の旗を掲げて／（九）「転向」批判に応えて／（一〇）第一次臨時

行政調査会での活動／（一一）ＩＣＵ行政大学院の設立／（一二）過ぎ去った日を顧みつつ／（一三）最後のご奉公

第Ⅱ章　蠟山行政学の形成

Ⅱ－1　初期の問題認識　113
（一）苦闘した経験科学の方法論／（二）なぜ「政治と行政との関係」なのか／（三）行政の技術性と国際行政への関心／（四）Ｃ・Ａ・ビアードとのめぐりあい
Ⅱ－2　行政学研究の本格展開　139
（一）総論的考察の試行に向けて／（二）画期的な中央・地方関係の研究／（三）文明史からの行政組織論／（四）早かった公益企業の研究
Ⅱ－3　体系化の構想と頓挫　172
（一）「行政学体系」の構想／（二）行政概念構成のための三部作――統治・生活営為・職務――／（三）「行政学体系」再構築の先送り

第Ⅲ章　ガバナンス問題の探求

Ⅲ－1　蠟山行政学の「アルファとオメガ」　211

（一）古くて新しい「ガバナンス問題」／（二）「自治の観点」と「国家の統治組織の見地」／（三）地方制度改革への迂回的考察

Ⅲ－2　蠟山行政学の視座　244

（一）蠟山行政学を承けて／（二）計画調整論としての可能性／（三）「ガバナンスの行政学」の着想

あとがき：私にとっての蠟山政道　287

蠟山政道略年譜

人名索引